



このリリースについて

- [リリースノートについて](#) (1 ページ)
- [サポートされるバージョン](#) (1 ページ)
- [このリリースのドキュメント](#) (2 ページ)
- [インストール手順](#) (5 ページ)
- [アップグレード手順](#) (5 ページ)

リリースノートについて

このリリースでは、Cisco Unified Communications Manager (Unified Communications Manager) および Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service (IM and Presence Service) の新機能、制限事項 および注意事項について説明します。このリリースノートは、メンテナンスリリースごとに毎回更新されていますが、パッチまたはホットフィックス向けには更新されていません。

サポートされるバージョン

次のソフトウェアバージョンは、リリース 12.5(1)SU4 でサポートされています。

- Unified Communications Manager : 12.5.1.14900-63
- IM and Presence Service : 12.5.1.14900-4

Unified CM と IM and Presence Service 間のバージョンの互換性

バージョンの互換性は、IM and Presence Service の展開タイプによって異なります。次の表は、オプションおよびテレフォニーの導入と IM and Presence Service 展開との間でリリースの不一致がサポートされるかどうかの概要を示しています。リリースの不一致がサポートされる場合、リリースの異なる Unified Communications Manager テレフォニー展開と IM and Presence Service 展開を展開できます。



(注) [Cisco.com](https://www.cisco.com) リリース間で生成された再スピンまたはESは、以前のリリースの一部と見なされません。たとえば、ビルド番号が 12.5.1.18[0-2]xx の Unified Communications Manager ES は、12.5(1)SU7 (12.5.1.17900-x) リリースの一部と見なされません。

リリース 12.5(1)SU7a の場合、ビルド番号が 12.5.1.181xx の Unified Communications Manager ES は、12.5(1)SU7a (12.5.1.18100-x) リリースの一部と見なされません。

表 1: Unified Communications Manager と IM and Presence Service 間のバージョンの互換性

展開タイプ	リリースの不一致	説明
IM and Presence Service の標準展開	サポート対象外	Unified Communications Manager と IM and Presence Service は同じクラスタに存在し、同じリリースを実行する必要があります。つまり、リリースの不一致はサポートされません。
中央集中型 IM and Presence Service の展開	サポート対象	<p>IM and Presence Service の展開とテレフォニーの展開は異なるクラスタに存在し、異なるリリースを実行します。つまり、リリースの不一致はサポートされます。</p> <p>(注) IM and Presence Service 中央クラスタには、データベースとユーザのプロビジョニングのためのスタンドアロン Unified CM Publisher ノードを含みます。この非テレフォニーノードは、IM and Presence Service と同じリリースで実行される必要があります。</p> <p>(注) リリース 11.5(1)SU4 以降では、IM and Presence Service の中央集中型の展開がサポートされています。</p>

このリリースのドキュメント

このリリースで入手可能なマニュアルの完全なリストについては、『[Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service リリース 12.5\(1\) のドキュメンテーションガイド](#)』を参照してください。

ドキュメンテーションの再構築 12.5(1)SU1 以降

以下は、12.5(1)SU1 の一部であったドキュメンテーションの再構築作業の概要です。今回リリースおよび以降のリリースでは、操作性を改善し、ドキュメンテーションセットを合理化するために、多くの Unified Communications Manager ドキュメントが再構築されました。この取り組みの一環として、新しいガイドが 1 つ追加され、3 つの既存のガイドが書き直され、5 つ

の既存のガイドが廃止されています。この全体的な労力により、Unified Communications Manager ドキュメンテーションスイートのサイズが4つのガイドで削減されます。

表 2: 12.5(1)SU1 以降の再構成ドキュメント

再構成ドキュメント	説明
システム構成ガイド	<p>12.5(1)SU1 では、『システム コンフィギュレーションガイド』は、完全なインストール後のシステム セットアップを作成するために短縮され、簡素化されています。基本のセキュリティと SSO の設定は、高度な呼処理機能が『機能設定ガイド』に移動している間に基本的なセットアップに入力するために追加されています。この新しいガイドでは、高度なシスコ コール処理ソリューションを導入するための、Unified Communications Manager の前提条件を形成しています。</p>
機能設定ガイド	<p>このガイドは、次の高度な呼処理のトピックを『システム コンフィギュレーションガイド』からこのガイドに移動するために拡張されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Call Control Discovery (呼制御ディスカバリ) • 外部コール制御 • [コールキューイング (Call Queuing)] • コール スロットリング • 論理パーティション設定 • ロケーション認識 • フレキシブル DSCP マーキングおよびビデオ プロモーション • SIP の正規化および透過性 • [SDP透明性プロファイル (SDP Transparency Profile)] • モバイルおよびリモート アクセス <p>さらに、次の新しいセクションが 12.5(1)SU1 とそれ以降に追加されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヘッドセット管理 • ビデオ エンドポイント管理

再構成ドキュメント	説明
アドミニストレーションガイド	<p>12.5(1)SU1 では、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』が、いずれも12.5(1)SU1 では廃止されている、『IP アドレス、ホスト名 およびドメインの変更』ドキュメント、『Cisco Unified Reporting アドミニストレーションガイド』ドキュメント、および既存の『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』ドキュメンテーションからの多数のセクションからの統合されたアドミニストレーション情報を含めるために拡張されています。</p> <p>上記の更新に加えて、トラブルシューティング情報の概要がアドミニストレーションガイドに挿入されました。</p>
コールレポートングおよび課金管理ガイド	<p>この新しいドキュメントでは、コールレポートングおよび課金管理のドキュメンテーションを簡素化し、現在ではいずれも廃止されている『Cisco Unified CDR Analysis and Reporting アドミニストレーションガイド』および『コール詳細レコードアドミニストレーションガイド』ドキュメントからの既存の資料を統合しています。また、これまで Serviceability の資料とともに利用できた CDR Repository および課金サーバの情報を追加しました。この新しいガイドは、全体的な構造を簡略化し、より明確な設定プロセスを提供します。</p>

表 3: 12.5(1)SU3 以降の再構成ドキュメント

再構成ドキュメント	説明
セキュリティガイド	<p>セキュリティガイドは、リリース 12.5(1)SU3 用に再構成されています。新しいガイドは合理化および強化されており、Unified Communications Manager および登録済みエンドポイントのセキュリティを簡単に設定および展開できるようになっています。この新しいガイドは、次の3つのセクションに分かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本セキュリティ：Unified Communications Manager および登録済みエンドポイントで基本セキュリティを設定する方法に関する情報が含まれています。 • ユーザーセキュリティ：ID、認証、およびユーザーアクセスを管理する方法に関する情報が含まれています。 • 高度なセキュリティ機能：FIPS モード、拡張セキュリティモード、V.150 などの高度なセキュリティ機能を展開する方法に関する情報が含まれています。 <p>この本には、展開のセキュリティに関する決定を行うのに役立つ、セキュリティの強化やID管理などの主題に関する新しいトピックを含む拡張情報も含まれています。</p>

再構成ドキュメント	説明
iPhone および iPad での Cisco Jabber のプッシュ通知の展開	このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスを使用した iPhone および iPad での Cisco Jabber のプッシュ通知を設定する方法について説明します。このガイドは更新され、Android デバイスと iOS デバイスの両方で実行される Cisco Jabber および Cisco Webex クライアントのプッシュ通知サポートが含まれています。

インストール手順

システムのインストール方法の詳細については、『[Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service リリース 12.5\(1\) インストールガイド](#)』を参照してください。

アップグレード手順

リリース 12.5(1) へのアップグレード方法については、『[Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のアップグレードおよび移行ガイド リリース 12.5\(1\)](#)』をご覧ください。

アップグレード中の Meltdown の脆弱性

このリリースの Unified Communications Manager、Cisco IM and Presence サービス、Cisco Emergency Responder および Cisco Prime Collaboration の導入には、Meltdown および Spectre のマイクロプロセッサの脆弱性に対処するためのソフトウェアパッチが含まれています。

リリース 12.5 (1) 以降にアップグレードする前に、シスコ コラボレーション サイジング ツールを使用して現在の展開をアップグレード済みの 12.5(1) SU4 展開と比較するように、チャネルパートナーまたはアカウントチームと連携させることをお勧めします。必要に応じて、VM リソースを変更して、アップグレードされた導入環境で最適なパフォーマンスが得られるようにします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。